

みずほマーケット・トピック(2020 年 11 月 6 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

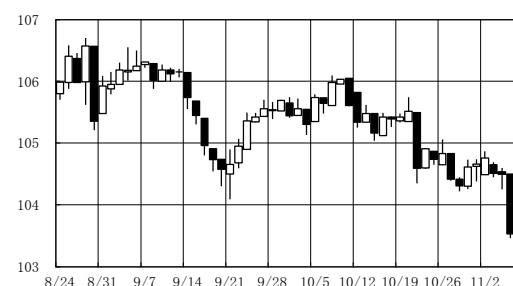
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は下落する展開。週初2日、104円台後半でオープンしたドル/円は、中国をはじめアジア諸国の10月製造業PMIが堅調な結果となり小幅に上昇したが、その後は米大統領選を控える中、様子見ムードとなり動意に乏しい展開となった。3日は、米大統領選において、市場では民主党のバイデン候補の勝利を織り込み始め、大規模な景気刺激策が検討されるとの見方から、米株価、米長期金利ともに上昇するリスクオンの流れとなり、ドル売りが強まると、ドル/円は104円台前半まで値を下げた。4日には、バイデン候補圧勝との観測からリスクオンのドル売りが強まり、ドル/円は軟調な値動きとなるが、激戦州で互角の戦いとなっていることが判明し、一転リスクオフのドル買いが強まると、一時週高値となる105.35円台前半まで急伸した。しかし上昇は一時的なものに留まり、米金利低下を受けてドル/円は104円台前半まで下落した。5日はドル売り地合いが継続する中、ドル/円は103円台後半まで下落。FOMC後のパウエルFRB議長のハト派な内容の発言もドル売りを強めることとなり、ドル/円は一時週安値となる103.45円をつけた。本日も、ドル/円は103円台半ばの週安値付近での値動きが継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は上昇する展開。週初2日、1.16台前半でオープンしたユーロ/ドルは、欧州のPMIの結果が良好であったことや、大統領選前の調整から欧州株、米株先物が上昇する動きに1.16台後半まで上昇。しかしその後は、堅調な米9月ISM製造業景況指数の良好な結果を受けてドルが買い戻される展開に、ユーロ/ドルは1.16台前半まで反落した。3日は、ドル売り優勢地合いの中、ユーロ/ドルは、1.17台前半までじりじりと上昇。4日には、バイデン候補の圧勝の観測から、ユーロ/ドルは、1.17台後半まで値を上げたが、次第に接戦となる展開に、ドルが買い戻され一時週安値となる1.1602まで急落した。その後は、堅調な株式市場の動きにユーロ/ドルは1.17台を回復した。5日、ドル売り優勢地合いの中、ユーロ/ドルは一時週高値となる1.1860をつけたが、大幅に上昇していた米株価が上げ幅を縮小する動きに1.17台後半まで反落した。しかし、FOMC後のパウエルFRB議長のハト派な記者会見を受け、再びドル売りが強まると、1.18台前半まで上昇した。本日にかけても、ユーロ/ドルは1.18台前半での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		10/30(Fri)	11/2(Mon)	11/3(Tue)	11/4(Wed)	11/5(Thu)	
ドル/円	東京9:00	104.56	104.61	104.74	104.55	104.44	
	High	104.74	104.95	104.82	105.35	104.57	
	Low	104.13	104.49	104.44	104.16	103.45	
	NY 17:00	104.66	104.76	104.51	104.50	103.53	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1677	1.1641	1.1641	1.1762	1.1731	
	High	1.1704	1.1656	1.1739	1.1770	1.1860	
	Low	1.1640	1.1622	1.1625	1.1602	1.1711	
	NY 17:00	1.1648	1.1638	1.1721	1.1725	1.1832	
ユーロ/円	東京9:00	122.05	121.85	122.01	122.95	122.49	
	High	122.41	122.15	122.75	123.06	123.18	
	Low	121.64	121.71	121.70	121.98	122.23	
	NY 17:00	121.92	121.97	122.47	122.55	122.48	
日経平均株価		22,977.13	23,295.48	-	23,695.23	24,105.28	
TOPIX		1,579.33	1,607.95	-	1,627.25	1,649.94	
NYダウ工業株30種平均		26,501.60	26,925.05	27,480.03	27,847.66	28,390.18	
NASDAQ		10,911.59	10,957.61	11,160.57	11,590.78	11,890.93	
日本10年債		0.04%	0.04%	-	0.03%	0.02%	
米国10年債		0.87%	0.85%	0.90%	0.77%	0.76%	
原油価格(WTI)		35.79	36.81	37.66	39.15	38.79	
金(NY)		1,879.90	1,892.50	1,910.40	1,896.20	1,946.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、今晚6日(金)に10月雇用統計が発表される。前回9月の非農業部門雇用者数は前月比66万人増と市場予想(同88万人増)を下回り、引き続き改善ペースが鈍化した。民間部門雇用者数は同88万人増となった。政府部門は地方の教育関連雇用の大幅減速を反映して、同▲22万人とマイナスに転じた。一方、失業率に関しては、9月の結果は7.9%と8月から0.5%ポイント改善した。内訳を見ると、一時的なレイオフから仕事に復帰した層が順調に復職し失業率改善に寄与したが、恒久的な解雇者数の増加傾向は続いている。また、平均時給の伸びは前月比+0.1%と大きな変化は見られなかった。9月までで、非農業部門雇用者数は3月以降の減少幅を約半分程度回復した状況となっている。しかし、前述の通り、改善ペースは徐々に緩やかとなっていることや、新型コロナウイルス感染第2波への懸念から雇用者数の上昇幅がより緩やかとなることが予想される。なお、ブルームバーグの予想では、非農業部門雇用者増加数を前年比69万人の増加と見込んでおり、失業率については7.6%と若干の改善を見込む。また、平均時給は前月比+0.2%上昇を見込んでいる。
- そのほか、政治関連では大統領選の開票が続いている。現在はバイデン候補優勢となっており、残る激戦5州の展開に引き続き注目が集まる。その一方で、トランプ米大統領は東部ペンシルベニアなど4州における大統領選の郵便投票の開票などを巡り訴訟を起こした。過去にも大統領選の再集計を巡って法廷闘争に発展した結果、結果の確定が大幅に後ずれした例があり、今回についても決着に時間を要する懸念が浮上している。
- 本邦では、9日(月)に、日銀金融政策決定会合における主な意見(10月29日会合分)が公表される。10月会合では大規模な金融緩和を継続することが決定したほか、「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」を公表し、経済成長率や物価上昇見通しを下方修正した。10月会合後にも黒田日銀総裁は新型コロナウイルス感染第2波の動向を注視し、必要とあれば追加的な措置をちゅうちょなく講じていくと述べたが、企業への資金繰り支援策は21年3月末に期限を迎える予定である。今回は景況感の現状認識とともに、次の一手を見据えた具体的な政策検討にかかる意見の内容に注目が集まる。

	本 邦	海 外
11月6日(金)	・9月家計支出	・米10月雇用統計
9日(月)	・日銀金融政策決定会合における主な意見 (10月29日会合分)	・独9月経常収支
10日(火)	・9月国際収支 ・30年物国債入札	・米10月NFIB中小企業楽観指数 ・独11月ZEW景気期待指数
11日(水)	・10月工作機械受注(速報)	・米休場
12日(木)	・10月国内企業物価指数 ・5年物国債入札	・米10月CPI
13日(金)	—————	・ユーロ圏9月貿易収支

【当面の主要行事日程(2020年11月～)】

ECB 政策理事会 (12月10日、1月21日、3月11日)
米 FOMC (12月15～16日、1月26～27日、3月16～17日)
日銀金融政策決定会合 (12月17～18日、1月20～21日、3月18～19日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年10月30日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ラガルド就任、1周年～)
2020年10月29日	ECB政策理事会プレビュー～求められる緩和仕草～
2020年10月27日	中銀は環境に貢献すべきか？～ESG全盛の中で～
2020年10月26日	解せないバイデントレード～米金利とドルの逆相関～
2020年10月23日	週末版(2020年、どのような通貨が評価されているのか？～年初来の対ドル変化率を振り返って～)
2020年10月22日	続・ブレグジット Q&A～首脳会議で深まった「溝」～
2020年10月20日	IMF秋季世界経済見通し改定の見るリスクシナリオ
2020年10月19日	過去最悪の米財政赤字とIMF「財政報告」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年9月分)
2020年10月16日	週末版(この状況でも底堅いユーロ相場～IMF最新見通しでも欧米成長率格差は過去最大～)
2020年10月15日	「ミニ合意」騒動とEU首脳会議の行方
2020年10月14日	元高の背景を整理～バイデントレードに加え金利と需給～
2020年10月13日	米大統領選挙に対する市場思惑をどう整理すべきか？
2020年10月9日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月8～9日開催分))～露骨なユーロ高けん制の実情～
2020年10月8日	深刻さを帯びてきたユーロ圏の物価情勢
2020年10月6日	ブレグジットQ&A～現状と展望のための6つの論点～
2020年10月5日	バイデントレードとは何か？～元買い、ペソ買い、株売り～
2020年10月2日	週末版(日銀短観(9月調査)を受けて～業況改善の裏で進む業績悪化と不安な設備投資～)
2020年10月1日	米株高と企業収益、そして恒常所得の関係
2020年9月29日	日米欧で最大になったECBバランスシート
2020年9月28日	「民間部門の貯蓄過剰」で低体温化する経済
2020年9月25日	週末版
2020年9月24日	為替市場を規定するユーロの値動き
2020年9月23日	越冬リスクという論点～安全資産「金」の薄さ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年8月分)
2020年9月18日	週末版(通貨高に苦しむECB～通貨政策化する金融政策～)
2020年9月17日	FOMCを終えて～日銀に似てきた情報発信
2020年9月15日	アベノミクスからスガノミクスへ～マクロ政策からミクロ政策へ～
2020年9月14日	マネー急増から何を読むべきか～「インフレの芽」なのか？～
2020年9月11日	週末版(ECB政策理事会について～実感する「ECBの日銀化」と「ユーロの円化」～)
2020年9月9日	過去の後退局面と何が異なるのか？～米雇用の深手～
2020年9月8日	ECB政策理事会プレビュー～ユーロ高けん制に動くか～
2020年9月7日	米8月雇用統計から何を読むか～「宿泊・飲食」の深手～
2020年9月4日	週末版
2020年9月3日	アベノミクス総括その②～なぜ円安になったのかを知るべき～
2020年9月2日	「真のリスクオフ通貨」になれるかの瀬戸際～試されるユーロ～
2020年9月1日	アベノミクス総括～「金融政策の無効性」という「地味な偉業」～
2020年8月28日	週末版(FRB戦略見直しとパウエル講演について～「アベレージ・ターゲット」という現状追認～)
2020年8月26日	腰折れたままの米消費者マインド～株価に連動しない誤算～
2020年8月24日	ECB政策理事会議事要旨～PEPP「全部使う」が公式見解～
2020年8月21日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～ほぼ完全に否定された米国版YCC～)
2020年8月20日	米大統領選挙・議会選挙と為替市場の関係について
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年7月分)
2020年8月18日	「ドル化した世界」におけるドル相場の限界
2020年8月17日	ECBの資産購入運営の現状～PSPPとPEPPの乖離～
2020年8月14日	週末版(ユーロ/ドルは購買力平価(PPP)に向かっているのか？～「1.20」台復帰を目指して～)
2020年8月12日	2020年上半期の円の基礎的需給環境について
2020年8月11日	全てを押し上げているのは実質マイナス金利なのか？
2020年8月7日	週末版
2020年8月4日	米製造業マインドよりも心配な米消費者マインド
2020年8月3日	「ユーロにあって円に無いもの」～基軸通貨性を考える～
2020年7月31日	週末版
2020年7月28日	「ドル売りの受け皿」がテーマ～過去最大の欧米逆転～
2020年7月27日	ユーロ上昇の理由～金利差縮小よりドル過剰感～
2020年7月22日	週末版
2020年7月21日	欧州銀行の貸出態度調査～ロックダウンの深手～
2020年7月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年6月分)
	臨時EU首脳会議で透けて見えた「第三の亀裂」
2020年7月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～PEPPは使い切り、「2つの機能」に向けて～)
2020年7月16日	ユーロ相場の近況について～上昇の瀬戸際～
2020年7月15日	臨時EU首脳会議～交錯する「2人の議長」～
2020年7月14日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2020年7月13日	ECBプレビュー～ラガルドインタビューは現状維持を示唆～
2020年7月10日	週末版
2020年7月9日	カレンシーボードに迫る脅威～米国の「諸刃の剣」～
2020年7月8日	増枠分の天井に近づいたECBの拡大資産購入プログラム(APP)
2020年7月7日	対外直接投資はこれからも増えるのか？
2020年7月3日	週末版(明らかになる「物価差なき世界」～金利と共に失われる為替の変動要因～)
2020年7月2日	金価格が上がっている理由～リスクオフという方便～
2020年7月1日	円相場の需給環境～ストック円高、フロー円安～
2020年6月26日	週末版(IMF、GFSR改訂を受けて～「実力以上の株価」という必要悪～)
2020年6月25日	ユーロ相場はなぜ堅調なのか？
2020年6月23日	メルケル首相に託されたEU復興基金の先行き
2020年6月22日	ECB、「真のバズーカ」と「影の政策金利」
2020年6月19日	週末版
2020年6月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2020年5月分)
	香港ドル相場の現状と展望～ベッグ崩壊の現実的な可能性は～
2020年6月17日	二番底はメインシナリオの1つとして見るべきか
2020年6月15日	29年連続「世界最大の対外純資産国」の読み解き方
2020年6月12日	週末版(EU首脳会議プレビュー～メルケル首相への花道論も～)
2020年6月11日	FOMCを終えて～当分失われそうなドル/円のボラティリティ～
2020年6月9日	米国はいずれ通貨政策に訴えかけるのか？～特権の行使～
2020年6月8日	金利上昇を容認したFRBと視野に入るYCC
2020年6月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～2022年末までバランスシート残高は高止まり～)
2020年6月4日	明らかにされたパンデミック緊急購入プログラムの全貌
2020年6月3日	米個人消費・所得、急変動に透けて見える日本化の胎動
2020年5月29日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～PEPPに孕む隠蔽リスク～)
2020年5月27日	最近の元安・ドル高相場の読み方